

石見神楽の保存・伝承方法の検討に向けた 他地域の取組事例について

2024年9月26日

【方針】

石見神楽伝承内容検討専門委員会におけるこれまでの議論を踏まえ、

- 伝統芸能・文化としての原点や特長を大切にしているもの
- 地域住民の誇りやアイデンティティの形成につながっているもの
- 今後の継承・発展に向けた広がりが見込めるもの

という観点から、参考となり得る事例・取組について調査を行いました。

【ポイント】

- 拠点施設（研究・保存・展示機能、舞殿）
- 後継者育成
- 新たな団体（中間支援組織）
- 人を呼び込むための仕掛け、情報発信
- マネタイズ（産業面）、ブランディング

事例① 高千穂の夜神楽（宮崎県）

拠点 施設	後継者 育成	新たな 組織	ブラン ド化	情報 発信
	○	○	○	

概 要

- 里ごとに氏神様を神楽宿と呼ばれる民家や公民館にお招きし、夜を徹して33番の神楽を奉納する神事。1978年に国の重要無形民俗文化財に指定された。
- 平安末期から鎌倉時代にかけて成立したといわれ、江戸時代の末頃まで高千穂神社の神職を中心に伝承し奉納されていたと考えられている。その後、33番に整えられ、集落ごとに伝承されるようになった。
- 例祭日は集落によって異なり、毎年11月中旬から翌年2月上旬にかけて、町内約20の集落で奉納される。



取 組

- 高千穂神社境内の神楽殿（畳の広間）で每晚20時より1時間、33番の神楽の中から代表的な4番を公開。拝観料は1人1,000円。定員200人（インターネット予約120人、当日受付80人）。
- 県観光協会は、日向神話の内容や物語にちなんだスポットを巡るルートを紹介するパンフレットを英語版や繁体字版で製作するなど、インバウンド向けに観光スポットのPRを行っている。
- 行政と旅行会社が連携し、様々なアクティビティを通して「夜神楽文化」を体験するインバウンド向けアドベンチャーツアー商品を造成。販売価格は4日間で100万円相当を見込み、高千穂で新しいアドベンチャーツーリズム文化の醸成を目指している。



高千穂神社神楽殿（約180㎡：舞殿）

- 公演における最低必要人数 5人
（奏楽3人、舞い手2人）
- 公演経費 交通費＋2万円
※10月から2万5千円

事例① 高千穂の夜神楽（宮崎県）

一般社団法人 高千穂町観光協会

- 2017年に観光地域づくり法人（DMO）に認定。
- 夜神楽を每晚開催。「観光客のために、夜間の観光スポットをつくりたい」という旅館関係者の声を受けて開始、1972年から続けている。観光協会の収入源となっている。
- 舞は各集落の舞い手（奉仕者（ほしゃ））が務めている。一年を通して舞を披露する機会があることにより、技芸の向上や、モチベーションの維持につながり、後継者の育成に大きな役割を果たしている。

高千穂の夜神楽伝承協議会

- 神楽継承のために集落どうしの連携を強めようと、2017年に設立。31神楽保存会などで構成。
- ユネスコ無形文化遺産登録を目標に掲げ、後継者育成や保存活動を行っている。
- 「こども伝承者の集い」を2023年2月に初開催。町内の神楽保存会7団体から小中高生計30人が出演し、8演目を披露。

高千穂さと神楽保存会

- 2022年に設立。
- 目的は、高千穂の夜神楽の「力になりたい」と願う人に、広く関われる機会を増やしていくこと。地域、性別に関係なく関わりたい人がかかわる仕組みづくりに取り組んでいる。
- 高千穂町在住であるかどうかに関係なく、会員になった方ができる範囲でサポートする環境を整備。入会者には、年間6,000円からの寄附を募る。
- 保存会に入会することで、神楽の舞や楽を女性が習得できる。

事例② 佐渡太鼓（新潟県佐渡市）

概要

拠点施設	後継者育成	新たな組織	ブランド化	情報発信
○	○	○	○	○

- 佐渡を拠点に太鼓を中心とした伝統的な音楽芸能に無限の可能性を見だし、現代への再創造を試みる。1981年のデビュー以降、50以上の国と地域で7,000回を超える公演を開催。
- 「ワン・アース（ひとつの地球）」と「くらす・まなぶ・つくる」を活動理念に掲げ、人と自然が共存する創造的な生き方を学び実践することをめざしている。
- 佐渡南西部に位置する小木半島の中央部「鼓童村」を拠点に活動。約4万坪の敷地には、本部棟、稽古場棟、住居棟、工房およびスタジオなどの施設があり、全国から集まった約60名に及ぶメンバーの創作の場となっている。このほかに佐渡島内に廃校校舎を利用した鼓童文化財団研修所、たたこう館（佐渡太鼓体験交流館（約671m²：ホール・展示室・会議室・カフェ等））がある。
- 佐渡に拠点を設けたのは、大学紛争の激しかった時代、日本の民俗芸能・工芸を学ぶ場を自分たちの手でつくりたいという若い意志に佐渡の方々が賛同したことから始まった。その夢を実現するネットワークを作るために「佐渡の国 鬼太鼓座」が結成され、佐渡を拠点に太鼓をたたいて世界を旅する活動が始まった。
- 1981年に「鼓童」として独立し、1988年に「鼓童村」を開村、豊かな自然に囲まれた創造と交流の拠点づくりに取り組んでいる。



事例② 佐渡太鼓（新潟県佐渡市）

太鼓芸能集団 鼓童

- 太鼓を中心とした伝統的な音楽芸能に無限の可能性を見だし、現代への再創造を試みる集団。日本を中心に世界の芸能の習得と研鑽、ならびに独自の創造的な表現活動を行っている。
- 公演活動ならびに創造活動全般の企画制作は株式会社北前船（1981年設立）が行っている。
- 劇場での公演のほか、小中高校生との交流を目的とした「交流学校公演」、ワールドミュージック・クラシック・ジャズ・ロック・ダンスほか異なるジャンルのアーティストとの共演や、世界の主要な国際芸術祭、映画音楽等へ多数参加している。



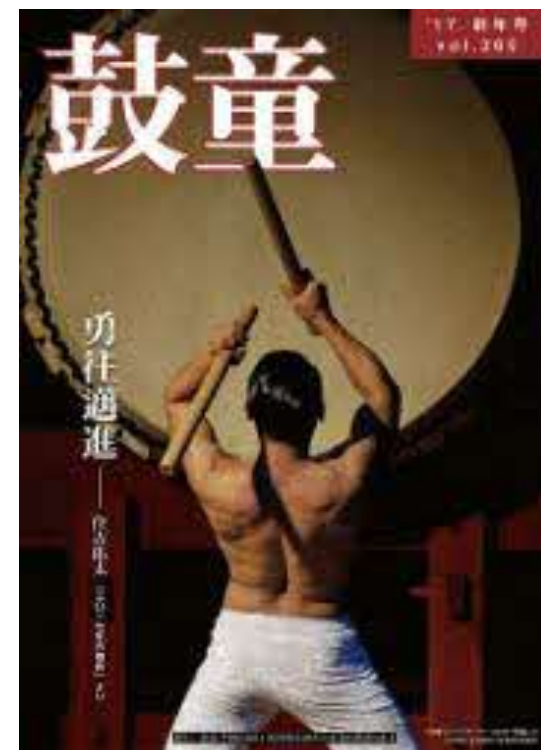
公益財団法人 鼓童文化財団

- 1997年に財団法人設立。2011年より公益財団法人。佐渡を基軸に、社会教育や地域還元に重点を置いた非営利活動を行っている。
- 人づくり（研修および体験学習を通じた担い手育成）・・・鼓童文化財団研修所の運営、太鼓の学校（オンライン講座）。
- 地域おこし（地域資源を活動した地域活性化）・・・たたこう館（佐渡太鼓体験交流館）の運営、廃校を活用した研修事業、修学旅行生の太鼓体験、HPでの情報発信。体験プログラムとしては、楽しむ（太鼓体験/ワーケーション/見学/催し物）、健康（エクサドン/ヘルスツーリズム）、学び（修学旅行・学習体験/企業研修/文化交流）、オーダーメイド（地域行事/出張ワークショップ）を用意。
- 芸術文化の振興（調査研究、教育・社会活動を通じた芸術文化の振興）・・・国際芸術祭での佐渡芸能の紹介、東京都文京区などと事業提携を結び、地域の芸術文化振興のための各種活動を協力実施。
- 国際交流（国際的な文化交流の場づくりと実践）・・・国際芸術祭「アース・セレブレーション（地球の祝祭）」の実施・運営。

事例② 佐渡太鼓（新潟県佐渡市）

鼓童の会

- 鼓童の活動への支援団体。
- 入会特典として、機関誌「季刊鼓童」送付、チケット先行予約、ワークショップ・交流会への優先参加、鼓童グッズ・佐渡特産品プレゼント、等）。
- 友の会：年会費3,000円・入会金1,000円／776名（2023年実績、以下同）
- 後援会：年会費10,000円・入会金1,000円／300名
- 支援会：年会費50,000円／20名
- 特別支援会：年会費100,000円／12名
- 賛助会：賛助会会費300,000円／定員350名
- 永年賛助会：賛助会会費300,000円／5名
- 2023年に会費を受領した方1,089名、会費受領総額7,579,000円



事例③ おにけんばい 鬼剣舞 (岩手県北上市、奥州市)

概要

拠点 施設	後継者 育成	新たな 組織	ブラン ド化	情報 発信
○	○			

- ・ 威嚇的な鬼のような面（仏の化身）をつけ勇壮に踊るところから「鬼剣舞」と呼ばれ、親しまれている。大宝年間（701～704年）に修験の祖・役の行者小角が念仏を広めるために、念仏を唱えながら踊ったのが始まりという説や、大同年間（806～810年）に羽黒山の法印・善行院荒沢鬼渡大明神で悪霊退散・衆生済度の念仏踊りとして伝えられたのが始まりともいわれている。
- ・ おはやしは太鼓1人、手平鉦（てびらがね）1人、笛2～4人で構成され、踊り手は8人で、これにカッカタ（道化面）、晴衣の少年（または少女）の胴取りが付属するのが本来の姿とされる。



取組

- ・ 「鬼」のテーマ博物館として、1994年に北上市立「鬼の館」が開設された。鬼剣舞の歴史をはじめ、様々な角度から鬼について知ることができる。国内外の鬼の面や、鬼にまつわる様々な資料の展示のほか、鬼剣舞を中心に、民俗芸能の定期公演を開催し、民俗芸能の由来や伝承活動について紹介している。岩崎鬼剣舞保存会指導の下、無料で鬼剣舞を体験できる「鬼剣舞ちょこっと体験」を年5回開催。毎月第3日曜日は「鬼ZZの日」として小学生の入館料が無料となり、和紙面づくりや鬼剣舞の衣装着衣体験が可能。



鬼の館について

- ・北上市立施設（行政組織図にあり：教育委員会内）。学芸員が配置されている。
- ・施設面積約1,789㎡：展示室・収蔵庫・研修室等。別途、野外ステージ（約150㎡）あり。
- ・1994年に開設、2022年8月に来館者数80万人（＝年平均2.86万人）。一般500円、高校生240円、小中学生170円。定住自立圏（北上市、奥州市、金ヶ崎町、西和賀町）に居住する小中学生は無料。北上市立博物館・北上市立利根山光人記念美術館との共通観覧券あり。
- ・鬼をテーマにした博物館で、鬼剣舞や、全国の鬼の文化に触れることができる。無料ガイドあり。
- ・「鬼の館だより」を年2回（10月・3月）発行。
- ・令和5年度下半期の取組・イベント等
 - ・企画展（8～10月）9,006人
 - ・開館30周年プレ事業 特別展「世界の仮面」（11月～2月）8,107人
 - ・芸能公演（10～11月に4回開催）観客数合計820人
 - ・鬼ッズ・プレイミュージアム（10～3月）
 - 和紙お面づくり104人参加、鬼剣舞衣装着衣体験 10人参加
 - 厄除けしめ縄リース作り7人参加、鬼剣舞和紙お面づくり4人参加
 - ・鬼剣舞ちょっぴり体験会 1月55人・2月69人・3月42人参加
 - ・福豆鬼節分会 5,384人参加
 - ・鬼学講座 第1回（2月）16人参加 第2回（3月）15人参加
 - ・学童保育所での「鬼の折り紙製作」850名参加
- ・令和6年度上半期の取組・イベント等
 - ・開館30周年特別ギャラリー展「岩手の民俗芸能を題材とした展示会」
 - ・開館30周年特別企画展「酒呑童子（しゅてんどうじ）展」
 - ・6月 会館30周年記念式典 神楽大会 シンポジウムなど
 - ・9月 逢魔が時ナイトミュージアム
 - ・7～8月 夏季ワークショップ
 - ・7～9月 鬼っ子わんぱく講座「鬼剣舞ぺっこ体験会」
 - ・4～9月 芸能公演 計11日



後継者（踊り手）の育成について

- ・ 岩崎鬼剣舞スポーツ少年団

子どもたちの健全育成と郷土芸能伝承の心を育むことを目的に、1969年に発足。市内外で鬼剣舞に興味のある小中学生を含む約60人が在籍し、岩崎鬼剣舞保存会の指導のもと週1回活動。地元行事での公演のほか、2005年に「東アジア子ども芸術祭inマカオ」に出演するなど、国内外で活動している。

- ・ 北上市立和賀東中学校特設鬼剣舞部

岩崎鬼剣舞スポーツ少年団と岩崎鬼剣舞保存会の指導の下、地域と学校が連携し活動を行っている。第22回全国中学校総合文化祭福岡大会（2022年）に出演し、全国の舞台で舞を披露したほか、高校文化祭や地元行事、みちのく芸能まつり等でも毎年披露している。

- ・ 岩手県立北上翔南高校鬼剣舞部

鬼剣舞の伝承活動を半世紀に渡って続けてきた北上農業高校から引き継ぐ形で2004年に創部。「岩崎鬼剣舞」から指導を受け活動中。かつては女人禁制の踊りだったが、男性の踊り手が少なくなったため、北上翔南高校の鬼剣舞部では女子生徒が中心となり、日々技を磨いている。県内外のイベントに参加し、鬼剣舞を全国に発信している。

事例④ 深野神楽 (雲南市)

拠点 施設	後継者 育成	新たな 組織	ブラン ド化	情報 発信
	○			

取 組

- ・ 深野神楽保存会では、月2回、第2・第4土曜日の14時から、雲南市吉田町の田井交流センターで「深野神楽子ども教室」を実施している。
- ・ 1988年に田井保育園が保育プログラムに取り入れたことがきっかけとなり、その後に吉田中学校が総合学習で実施。2003年に公民館が「深野神楽子ども教室」を開講。
- ・ 練習時間も稽古の内容も子どもに合わせて決めるなど、子どもや保護者の負担を減らしていることで、継続した取組につながっている。
- ・ 子どもが学びやすいように、笛のメロディを楽譜化している。
- ・ 子ども教室で神楽を始めた最初の子どもは、現在30歳を超え、何人かは自分たちが舞うと同時に、子ども神楽教室の指導者にもなっている。



事例⑤ 人を呼び込む仕掛け

気仙沼クルーカードアプリ

- 運営主体は気仙沼観光推進機構。
- クルーカードはクルーシップに参加するすべての人に贈られ、ポイントカードとして市内の加盟店で使えるほか、全国1,500以上の提携サイトのネットショッピングでもポイントが貯められる。
- ポイントを使わずに失効した場合、全額気仙沼に寄付される。
- 地域外だけでなく、市民の利用も増加している。（市外2.8万人・市内2.2万人）



事例⑤ 人を呼び込む仕掛け

山形県西川町 デジタル住民票

- 関係人口の創出と地域活性化を目指し、日本最大級のNFTマーケット「HEXA（へキサ）」と包括連携協定を締結し、「西川町デジタル住民票NFT」を1個1,000円、1,000個限定で抽選販売。1万3,440個の申込みがあった。
- NFT保有者は、NFTで証明されたデジタル住民になることができるほか、町長も参加するオンラインコミュニティに参加し、西川町の課題に対するコメントや投票を通じて、地域復興プロジェクトへの参加が可能。また、町内の温泉に無料で入浴できるなどの特典あり。
- NFT保有者の提案での観光ツアー実施や、県外でのイベント実施時のデジタル住民のボランティア参加など、関係人口の維持・拡大に効果を上げている。



新潟県長岡市 デジタル住民票

- 「山古志住民会議」は、山古志地域の特産である錦鯉をモチーフにしたNFTアートを創作し、「Nishikigoi NFT」として販売。購入すると山古志地域の「デジタル村民」になることができる。
- これまでに1,600人以上が購入し、山古志地域の課題や魅力を話し合うオンライン上のミーティングに参加しアイデアを出し合ったり、実際に山古志地域に「帰省」し、地域活動への参加を通じて、地元住人と交流を深めている。

※NFT（Non-Fungible Token）とは

- 「偽造・改ざん不能のデジタルデータ」であり、ブロックチェーン上で、デジタルデータに唯一性を付与して真贋性を担保する機能や、取引履歴を追跡できる機能をもつ。
- スポーツやファッション、アートの分野でも、DXにより新たなビジネスが広がる中、NFT・ブロックチェーン技術も大きな注目を集めており、今後、スポーツ選手の映像や画像、クリエイターが生み出すデジタル作品等が「唯一無二の資産」として取引される市場が登場し、それにより様々な業界への「新しい資金循環」が生まれる可能性。

琉球びんがたNFT



- 株式会社ピハナコンサルティングは、琉球びんがた事業協同組合、琉球びんがた職人、民間企業から組成される一般社団法人琉球びんがた普及伝承コンソーシアム、知念紅型研究所と連携し、琉球文化の象徴である国指定伝統的工芸品「琉球びんがた」の本染め及び型紙のデジタルデータをNFTとして販売、当データを活用した商品開発を推進することで収益化を可能とするサービス「琉球びんがたNFT」を2021年に開始。
- 2022年に那覇市内で開催された、IVS（国内外のスタートアップ経営者・上場企業経営者が集う国内最大級のカンファレンス）にて、琉球びんがたラベルの泡盛購入権付NFTを展示・販売。通常の泡盛の20倍ほどの高額で即完売した。
- デザイン性の高い琉球びんがたの本染め・型紙をNFT化しただけでなく、このデザインを使った商品の開発・販売を推進し、NFT購入者のコミュニティ限定の本染め制作権や工房視察権等を付与。新たな市場への挑戦を通じて、伝統の継承と工芸の新たな可能性を切り拓いていくことを目指している。